

○総務省告示第九十三号

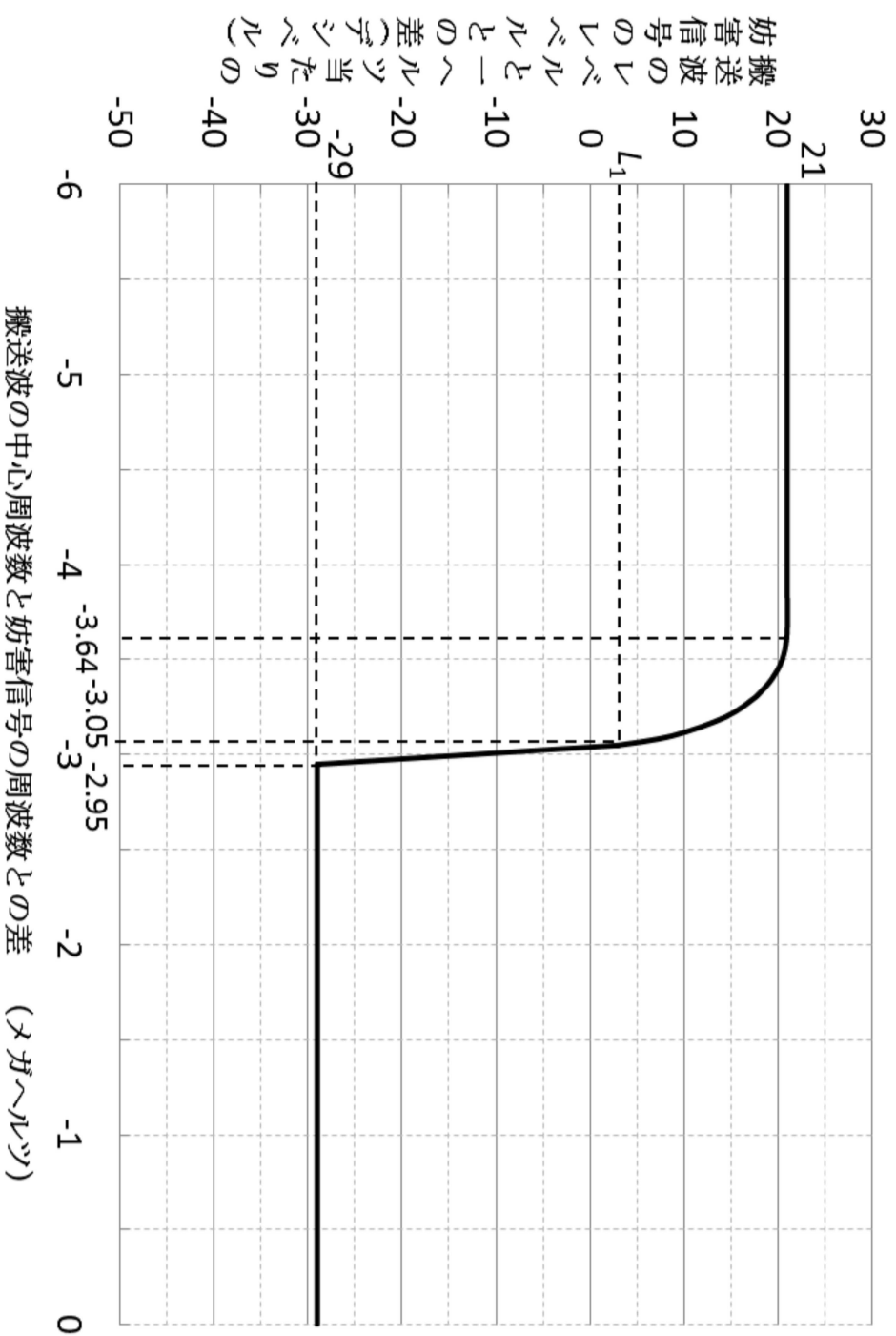
有線一般放送の品質に関する技術基準を定める省令（平成二十三年総務省令第九十五号）第二十条第二項の規定に基づき、平成二十三年総務省告示第三百十五号（有線テレビジョン放送等の受信に影響を与えることが検知されないための技術的条件を定める件）の一部を次のように改正する。

平成二十七年三月二十日

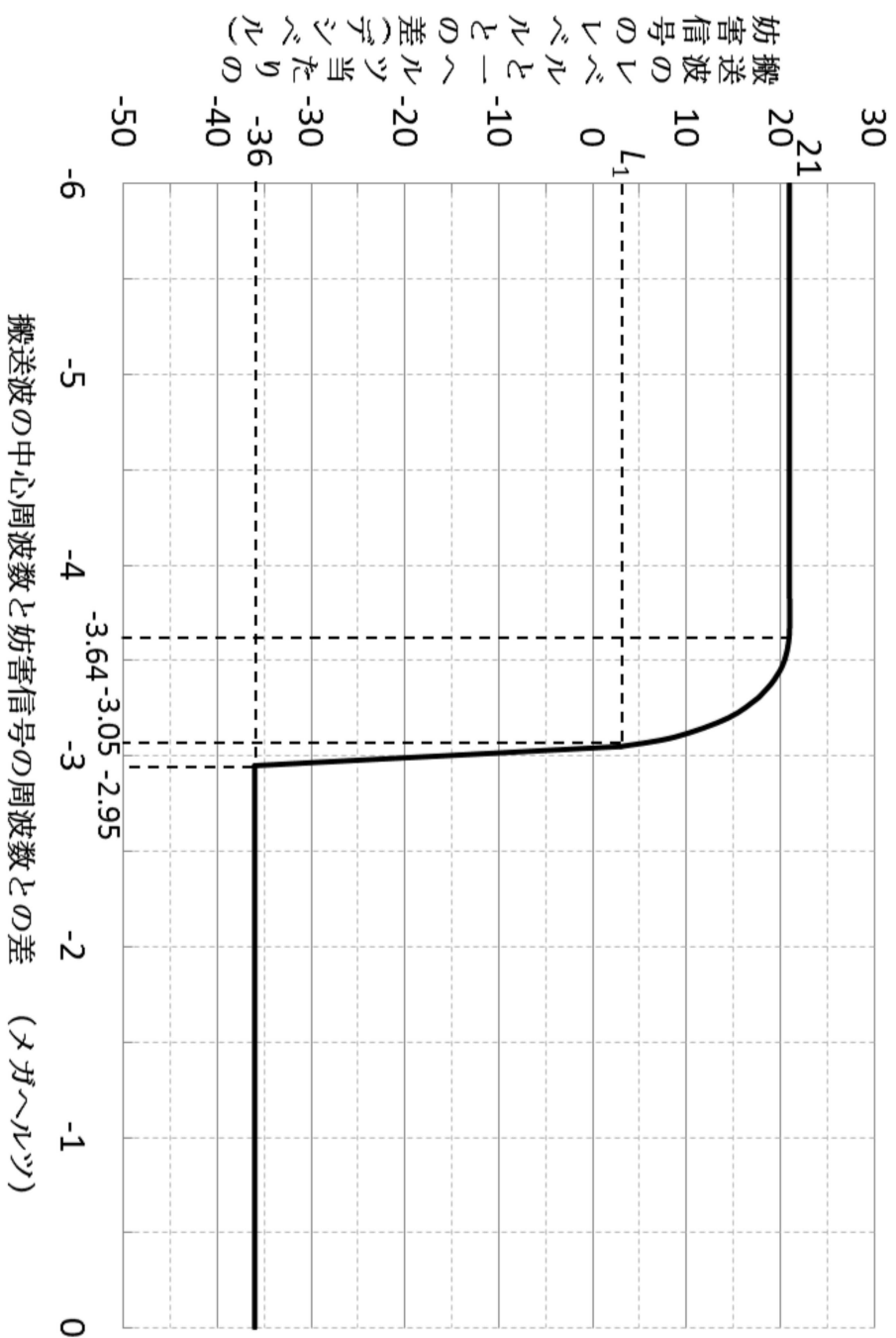
総務大臣 山本 早苗

別図第三号(2)の次に次のように加える。

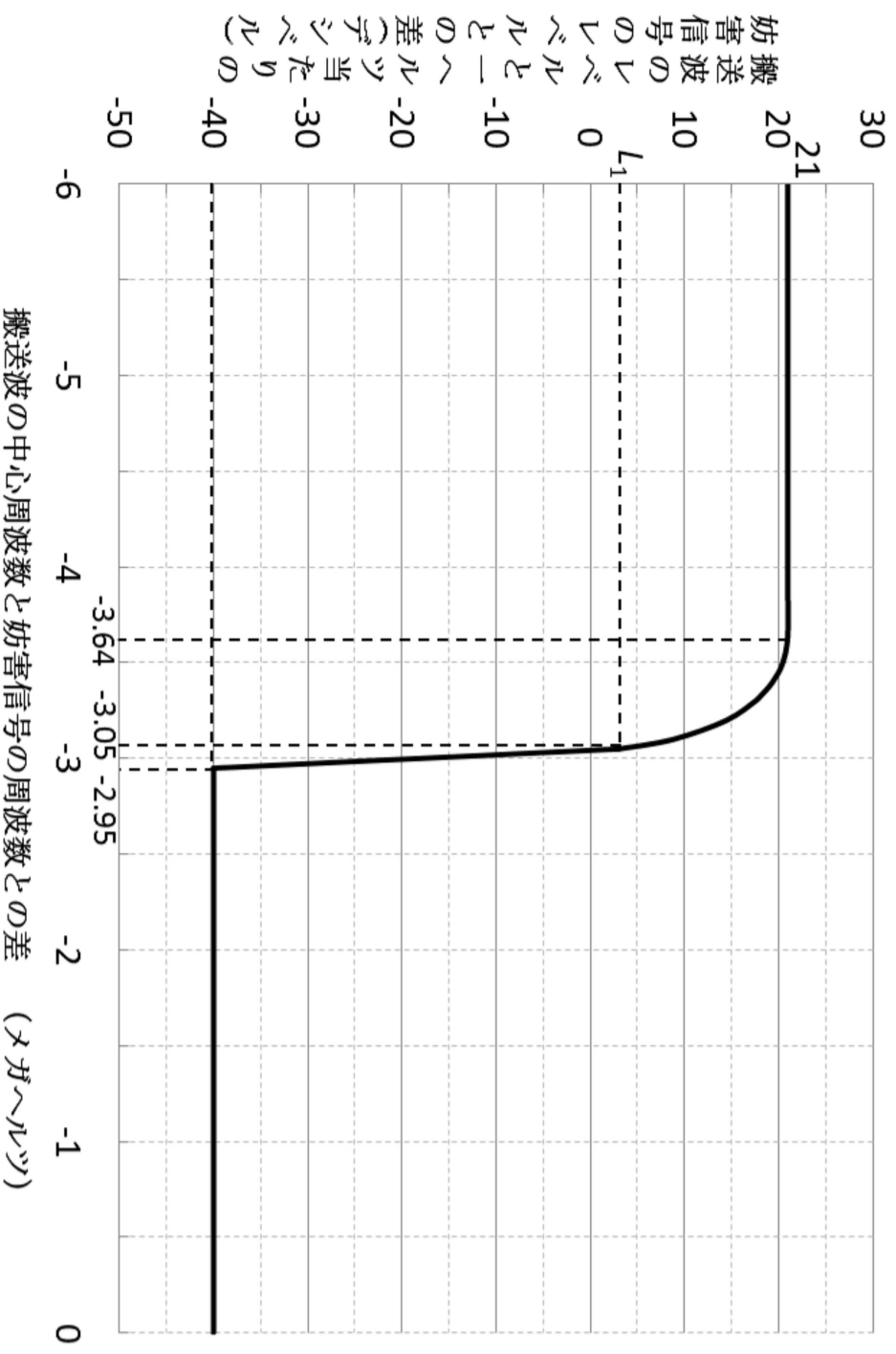
- (3) 搬送波の変調の型式が直交周波数分割多重変調である場合
イ 副搬送波の変調の型式が二五六値直交振幅変調である場合



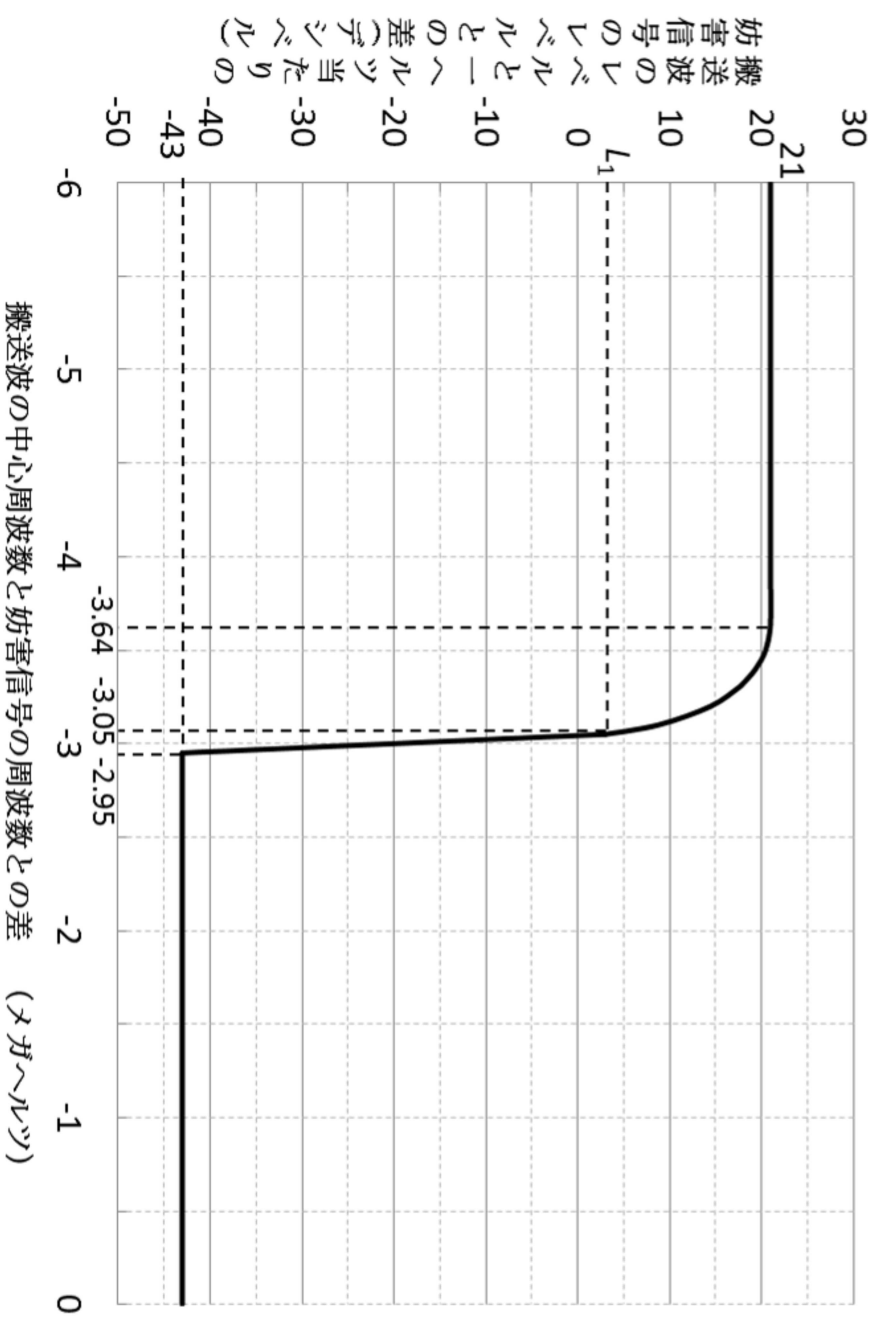
ロ 副搬送波の変調の型式が $\pi/4$ 二値直交振幅変調である場合



ハ 副搬送波の変調の型式が四〇九六値直交振幅変調であって符号化率五分の四の場合



ニ 副搬送波の変調の型式が四〇九六値直交振幅変調であって符号化率六分の五の場合



注 1 一ヘルツ当たりの搬送波のレベルの平均値を基準値 (0 dB) とする。

注 2 スペクトルマスキングの値は、次式のとおり。なお、搬送波の中心周波数と妨害信号の周波数との差 (MHz) を f 、搬送波のレベルと一ヘルツ当たりの妨害信号のレベルとの差 (dB) を L とする。

• f が-3.64MHz以下の場合： $L=21$ [dB]

• f が-3.64MHzを超え-3.05MHz以下の場合：

$$L = 21 + 20 \log_{10} \left\{ \sqrt{\frac{1}{2} \left(1 - \sin \left(\frac{\pi}{2} \times \frac{2(f+6) - f_0}{\alpha \cdot f_0} \right) \right)} \right\} \quad [\text{dB}]$$

なお、 $f_0=5.360537$ [MHz]、 $\alpha=0.12$ とする。

• f が-3.05MHzを超え-2.95MHz未満の場合：

$$L = -10(L_1 - X)(f + 2.95) + X$$

なお、 $L_1 = 21 + 20 \log_{10} \left\{ \sqrt{\frac{1}{2} \left(1 - \sin \left(\frac{\pi}{2} \times \frac{2(f_1+6) - f_0}{\alpha \cdot f_0} \right) \right)} \right\}$ [dB] とする。

ここで、 $f_0=5.360537$ [MHz]、 $f_1=-3.05$ [MHz]、 $\alpha=0.12$ とする。

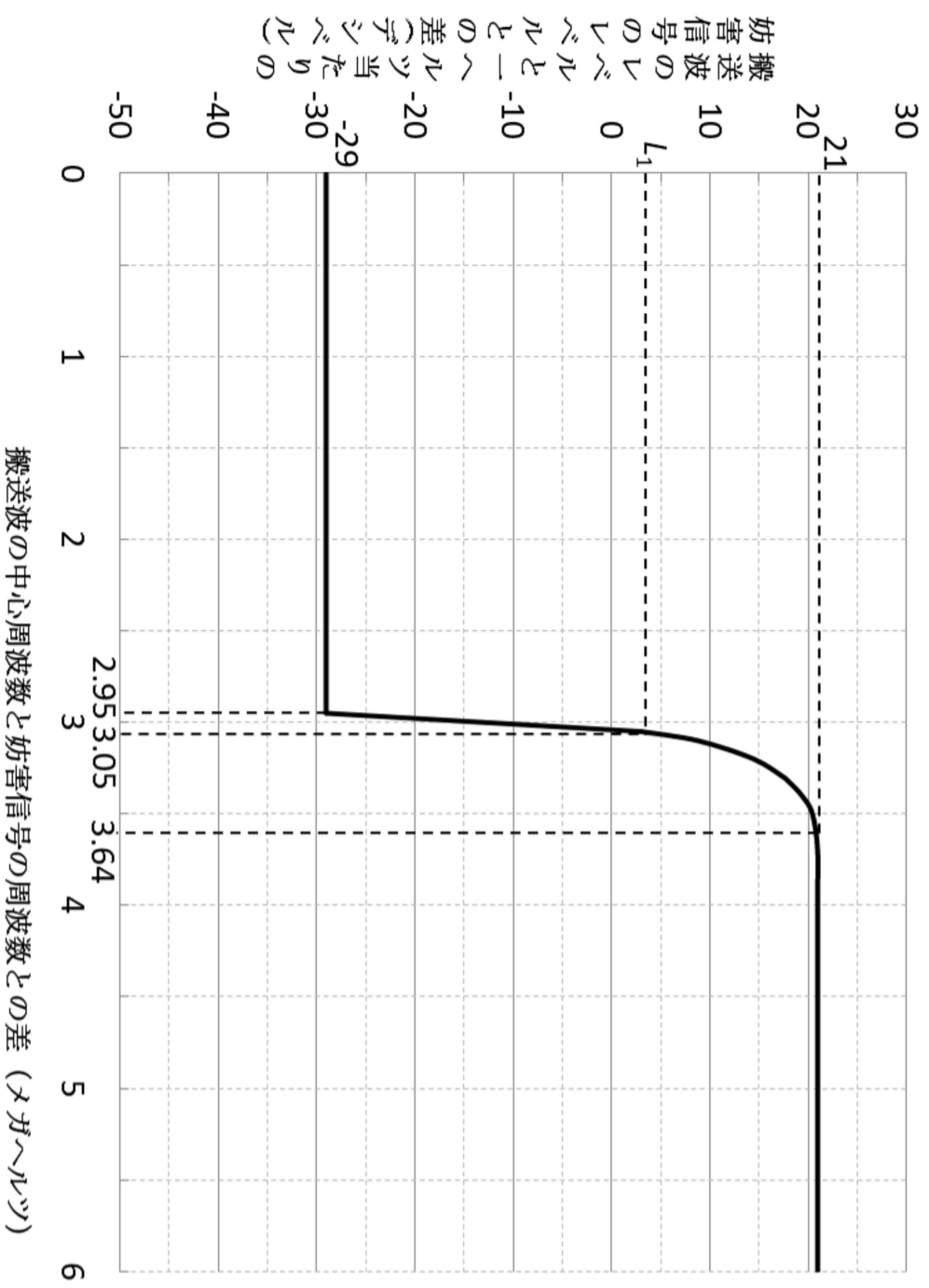
また、 X の値は、次表のとおりとする。

副搬送波の変調の型式と符号化率	ノイズ妨害比 X
二五六値直交振幅変調	-29dB
一〇二四値直交振幅変調	-36dB
四〇九六値直交振幅変調 符号化率4/5	-40dB
四〇九六値直交振幅変調 符号化率5/6	-43dB

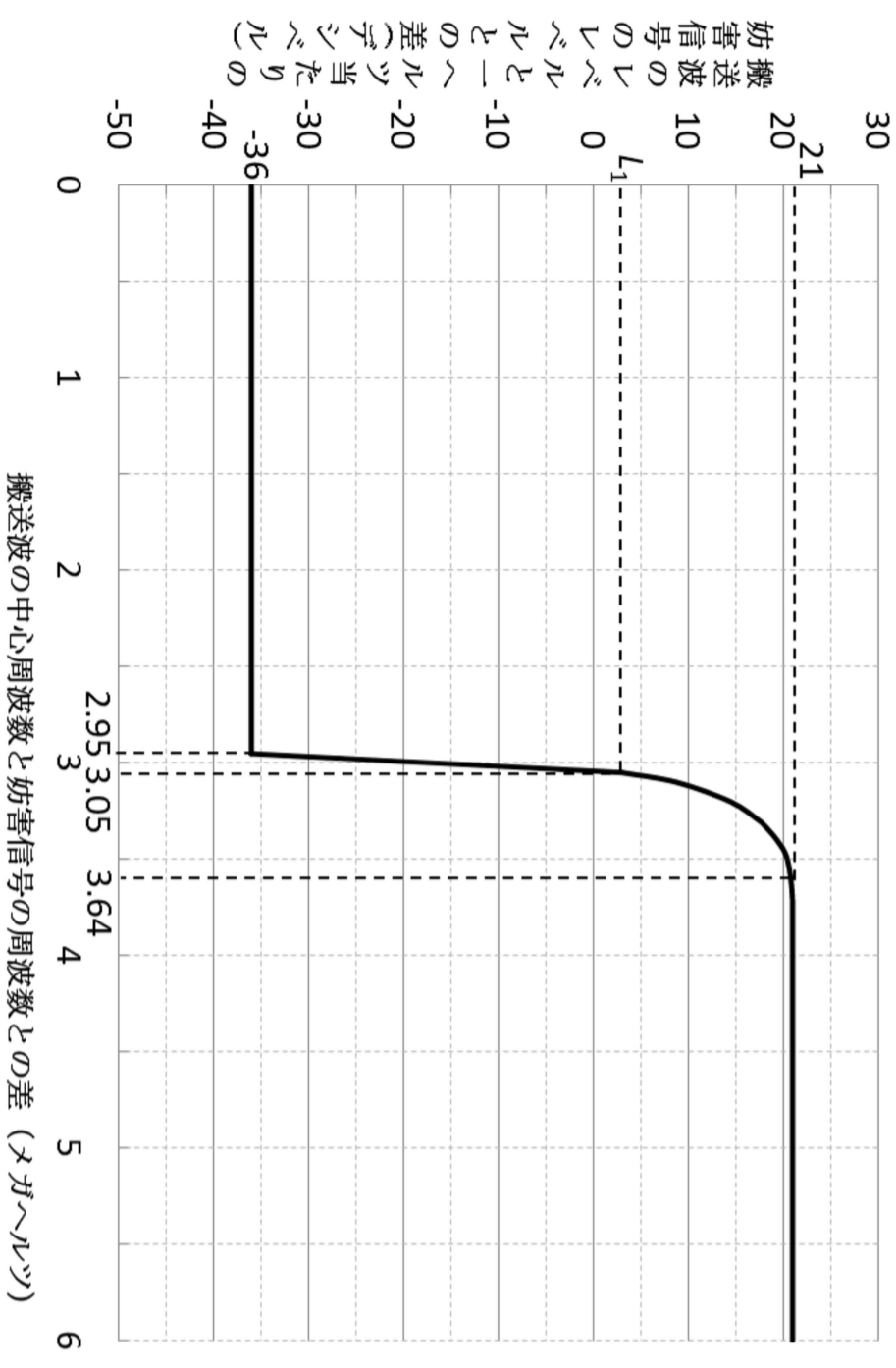
・ f_{off} —2.95MHz以上の場合： $L = X$ [dB]

別図第四号(2)の次に次のように加える。

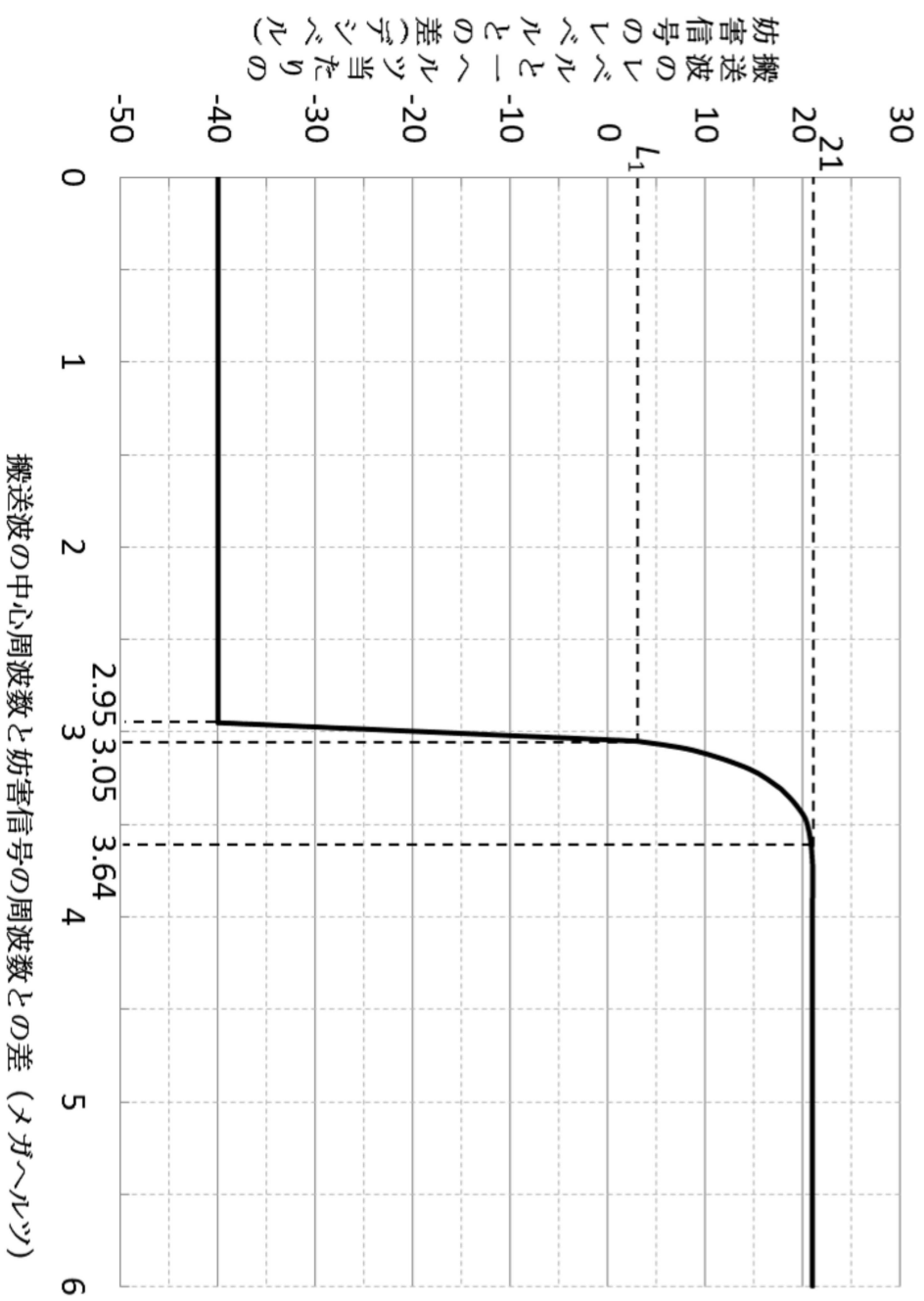
- (3) 搬送波の変調の型式が直交周波数分割多重変調である場合
- イ 副搬送波の変調の型式が二五六値直交振幅変調である場合



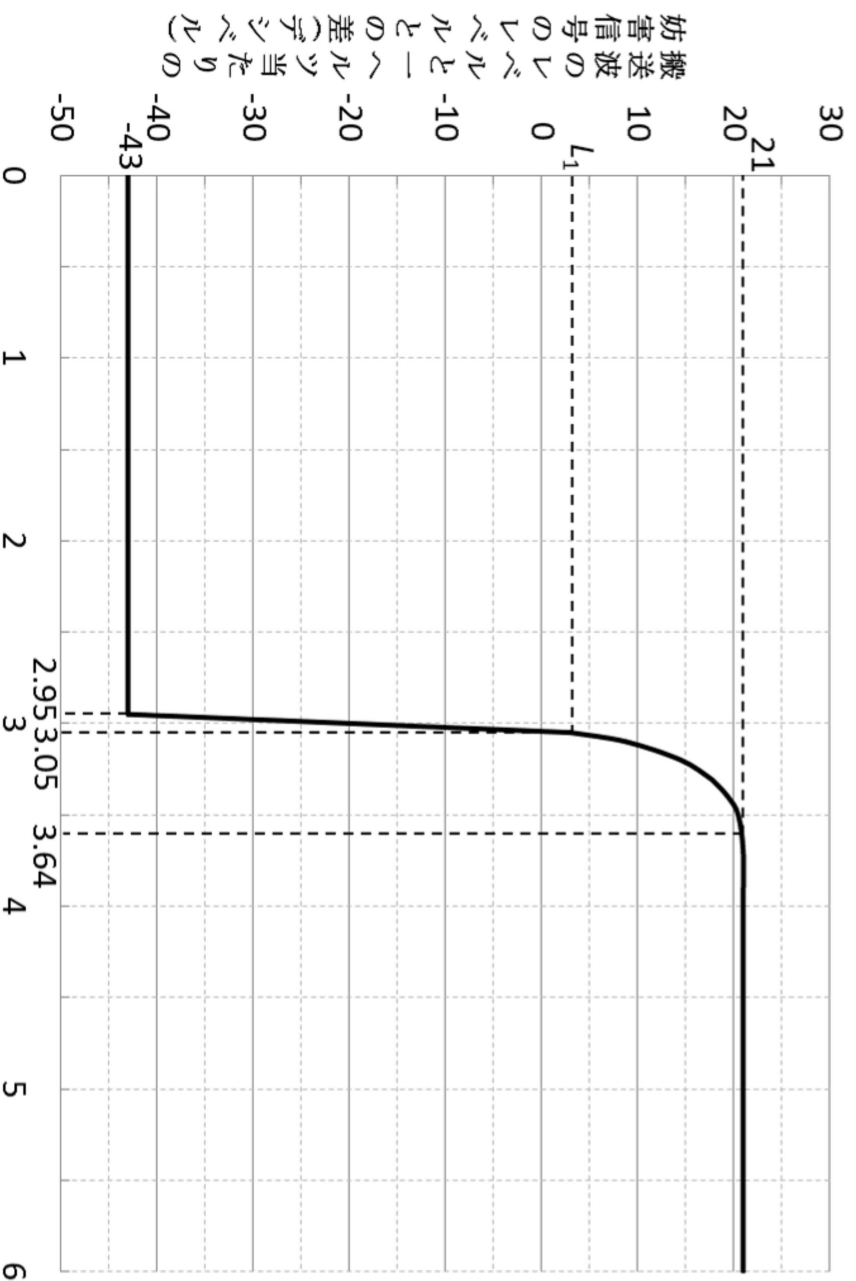
ロ 副搬送波の変調の型式が一〇二四値直交振幅変調である場合



ハ 副搬送波の変調の型式が四〇九六値直交振幅変調であって符号化率五分の四の場合



二 副搬送波の変調の型式が四〇九六値直交振幅変調であって符号化率六分の五の場合



注 1 一ヘルツ当たりの搬送波のレベルの平均値を基準値 (0 dB) とする。

注 2 スペクトルマスクの値は、次式のとおり。なお、搬送波の中心周波数と妨害信号の周波数との差 (MHz) を f 、搬送波のレベルと一ヘルツ当たりの妨害信号のレベルとの差 (dB) を L とする。

• f が2.95MHz以下の場合： $L = X$ [dB]

なお、 X の値は、次表のとおりとする。

副搬送波の変調の型式と符号化率	ノイズ妨害比 X
二五六値直交振幅変調	-29dB
一〇二四値直交振幅変調	-36dB
四〇九六値直交振幅変調 符号化率4/5	-40dB
四〇九六値直交振幅変調 符号化率5/6	-43dB

• f が2.95MHzを超え3.05MHz未満の場合：

$$L = 10(L_1 - X)(f - 2.95) + X$$

なお、 $L_1 = 21 + 20 \log_{10} \left\{ \sqrt{\frac{1}{2} \left(1 + \sin \left(\frac{\pi}{2} \times \frac{2(f_1 - 6) + f_0}{\alpha \cdot f_0} \right) \right)} \right\}$ [dB] とする。

ここで、 $f_0 = 5.360537$ [MHz]、 $f_1 = 3.05$ [MHz]、 $\alpha = 0.12$ とする。

・ f が3.05MHz以上3.64MHz未満の場合：

$$L = 21 + 20 \log_{10} \left\{ \sqrt{\frac{1}{2} \left(1 + \sin \left(\frac{\pi}{2} \times \frac{2(f-6) + f_0}{\alpha \cdot f_0} \right) \right)} \right\} \quad [\text{dB}]$$

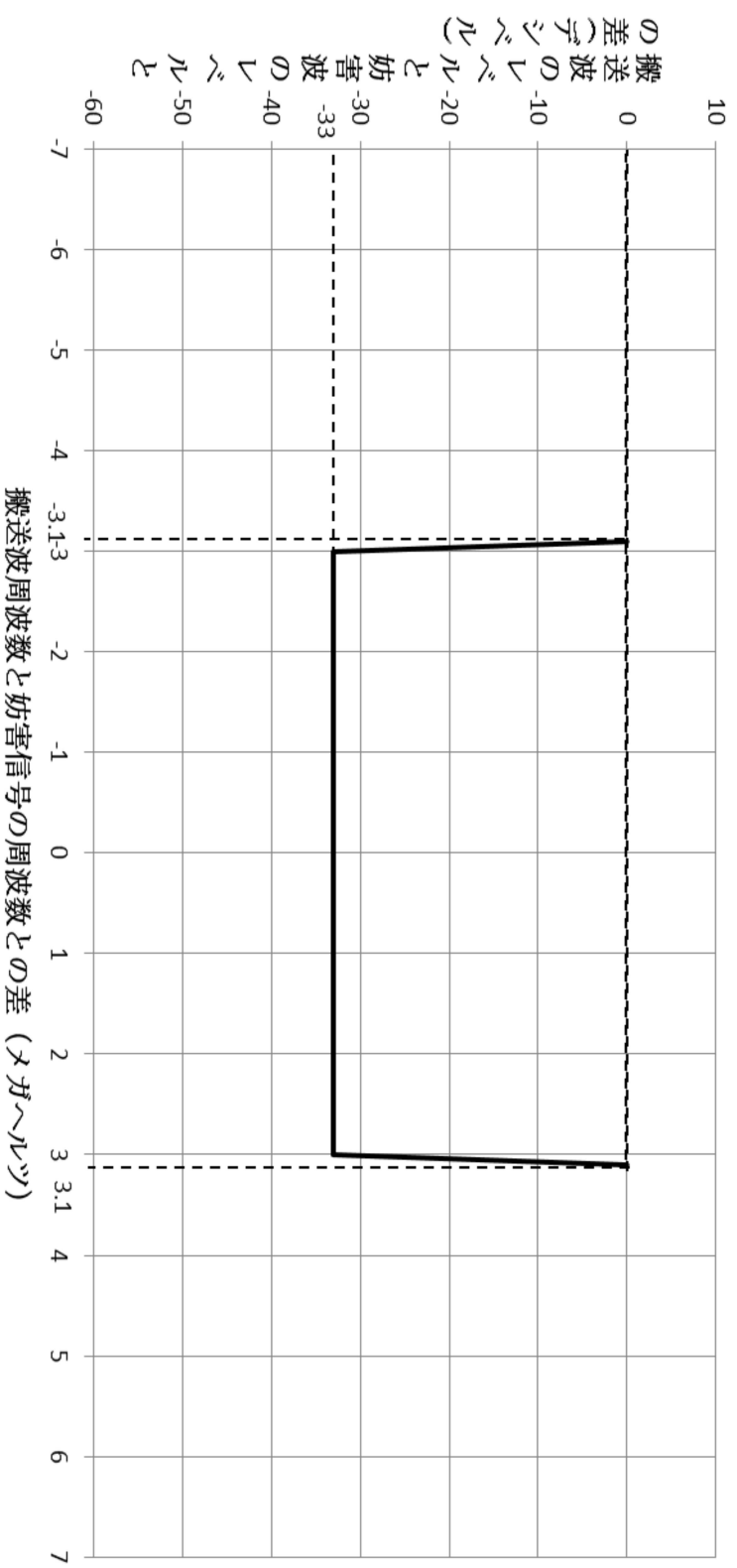
なお、 $f_0 = 5.360537$ [MHz]、 $\alpha = 0.12$ とする。

・ f が3.64MHz以上の場合： $L = 21$ [dB]

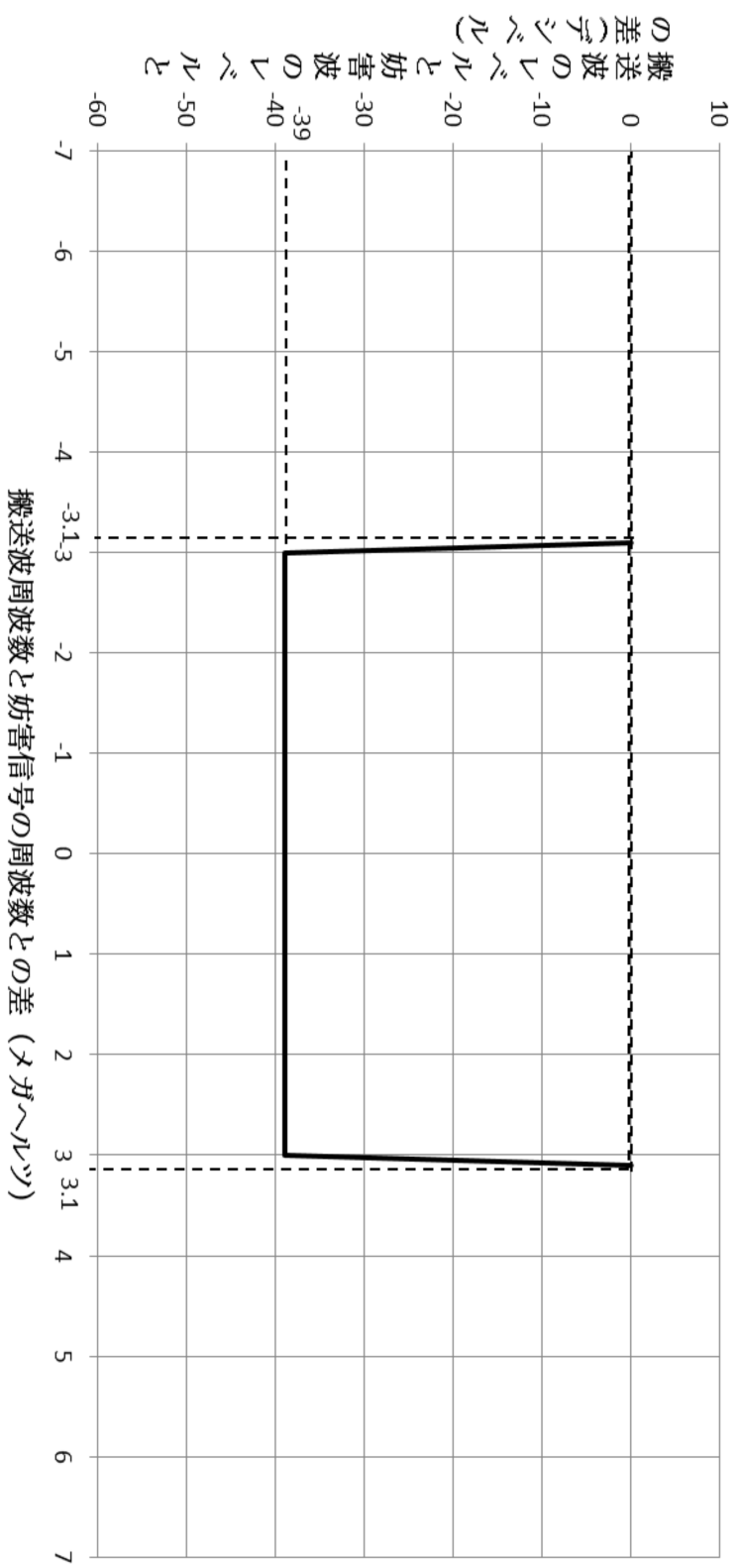
別図第五号(2)の次に次のように加える。

(3) 搬送波の変調の型式が直交周波数分割多重変調である場合

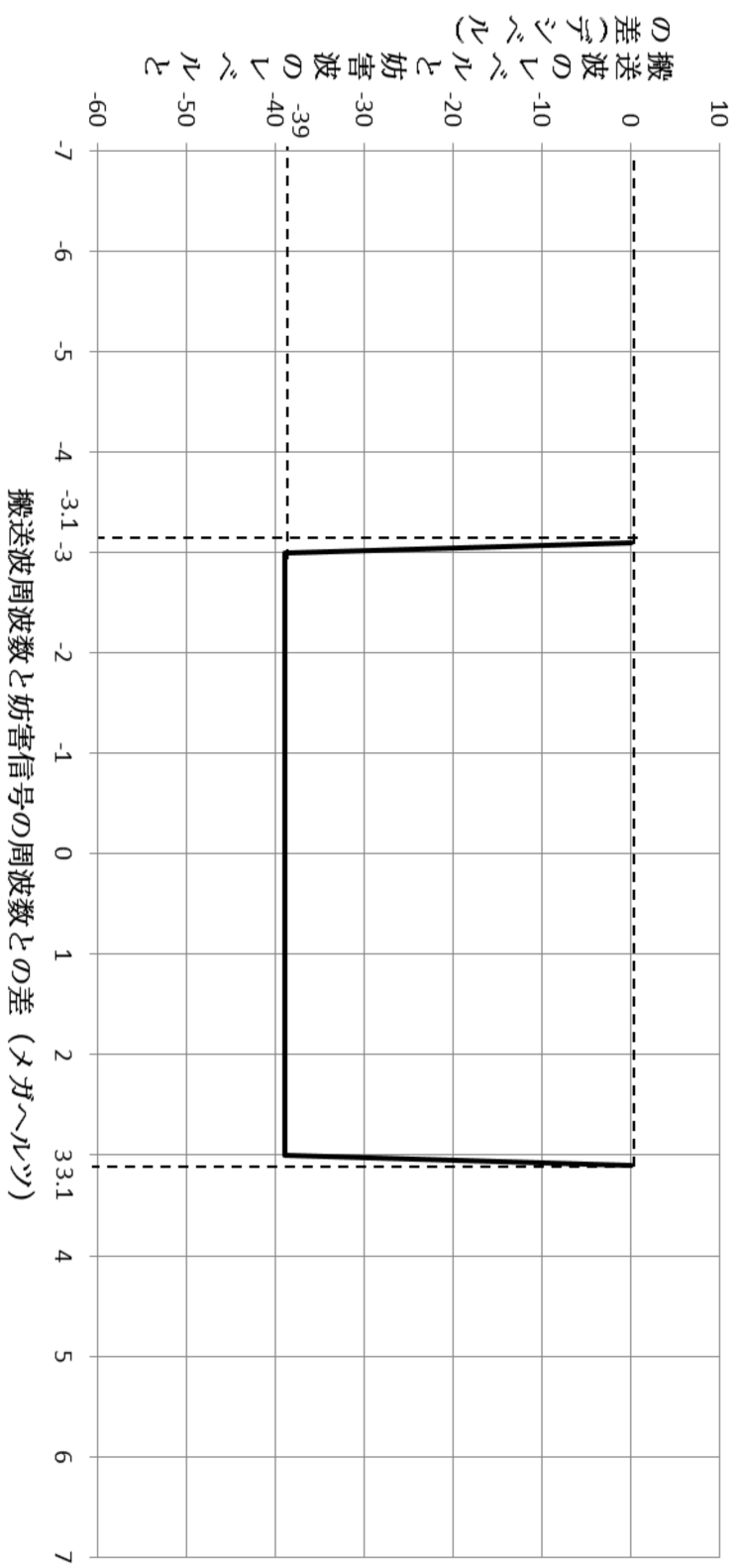
イ 副搬送波の変調の型式が二五六値直交振幅変調である場合



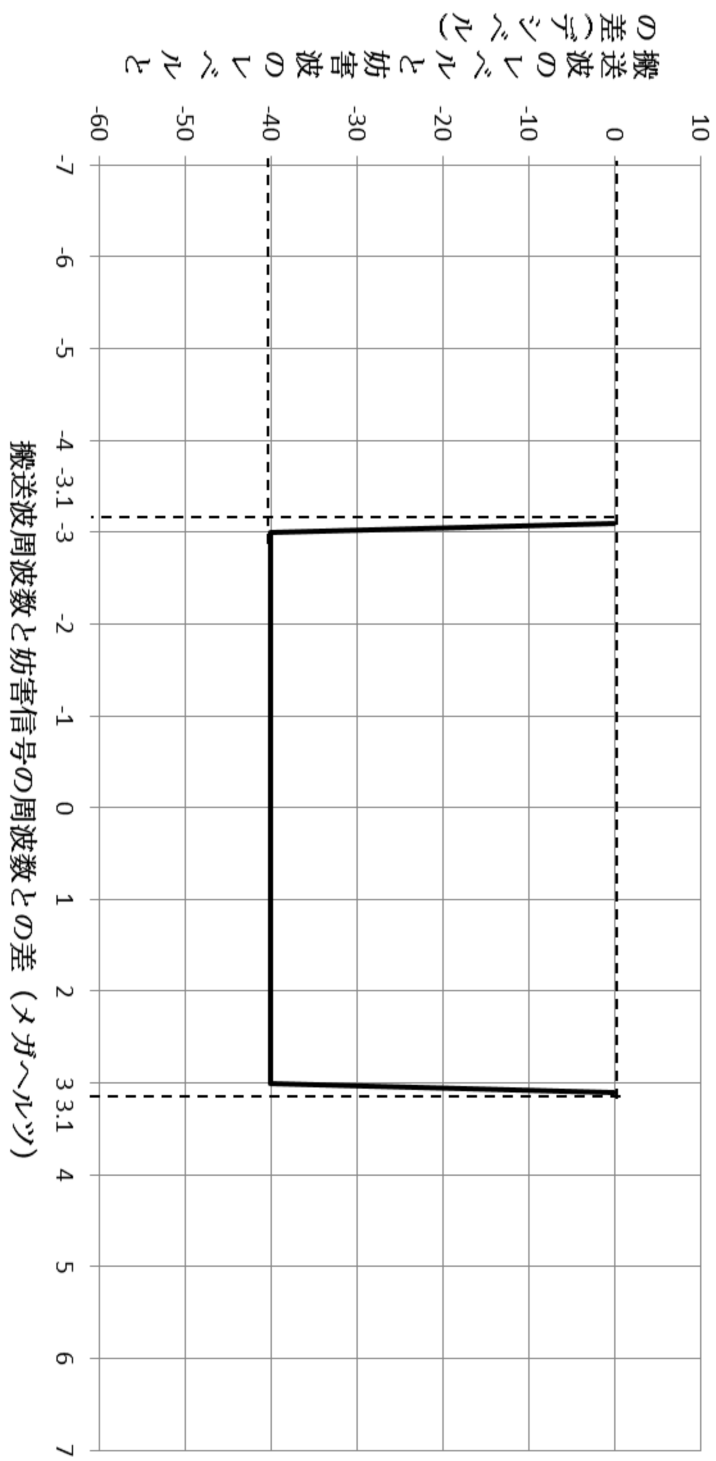
ロ 副搬送波の変調の型式が—〇二四値直交振幅変調である場合



ハ 副搬送波の変調の型式が四〇九六値直交振幅変調であって符号化率五分の四の場合

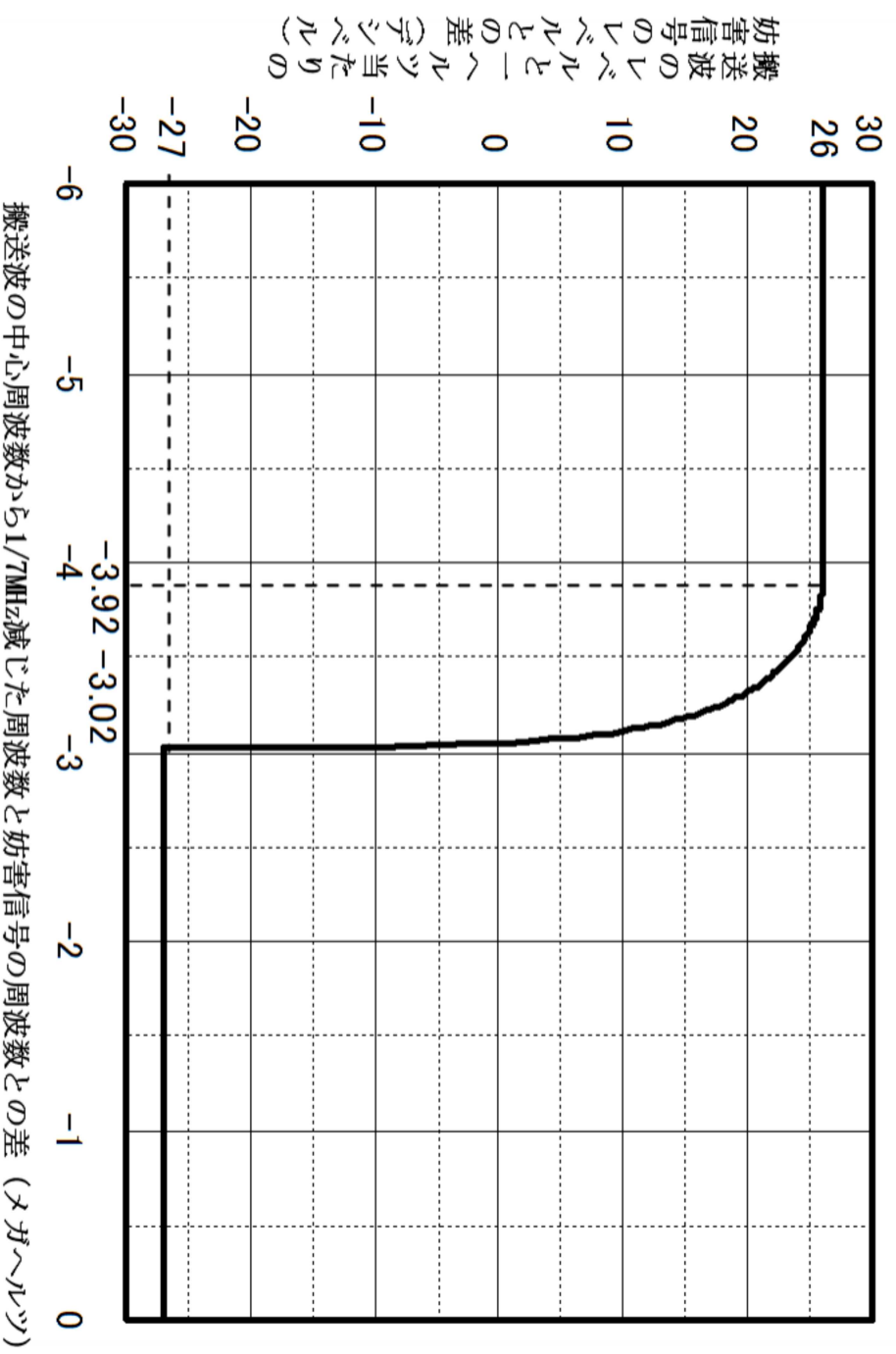


ニ 副搬送波の変調の型式が四〇九六値直交振幅変調であって符号化率六分の五の場合



別図第六号から別図第八号までを次のように改める。

別図第六号 標準デジタルテレビジョン放送方式の下側周波数のスペクトロマスク



注 1 一ヘルツ当たりの搬送波のレベルの平均値を基準値 (0 dB) とする。

注 2 スペクトルマスクの値は、次式のとおり。なお、搬送波の中心周波数から1/7MHz減じた周波数と妨害

信号の周波数との差 (MHz) を f 、搬送波のレベルとーヘルツ当たりの妨害信号のレベルとの差 (dB) を L とする。

・ f が -3.92MHz 以下の場合 : $L = 26$ [dB]

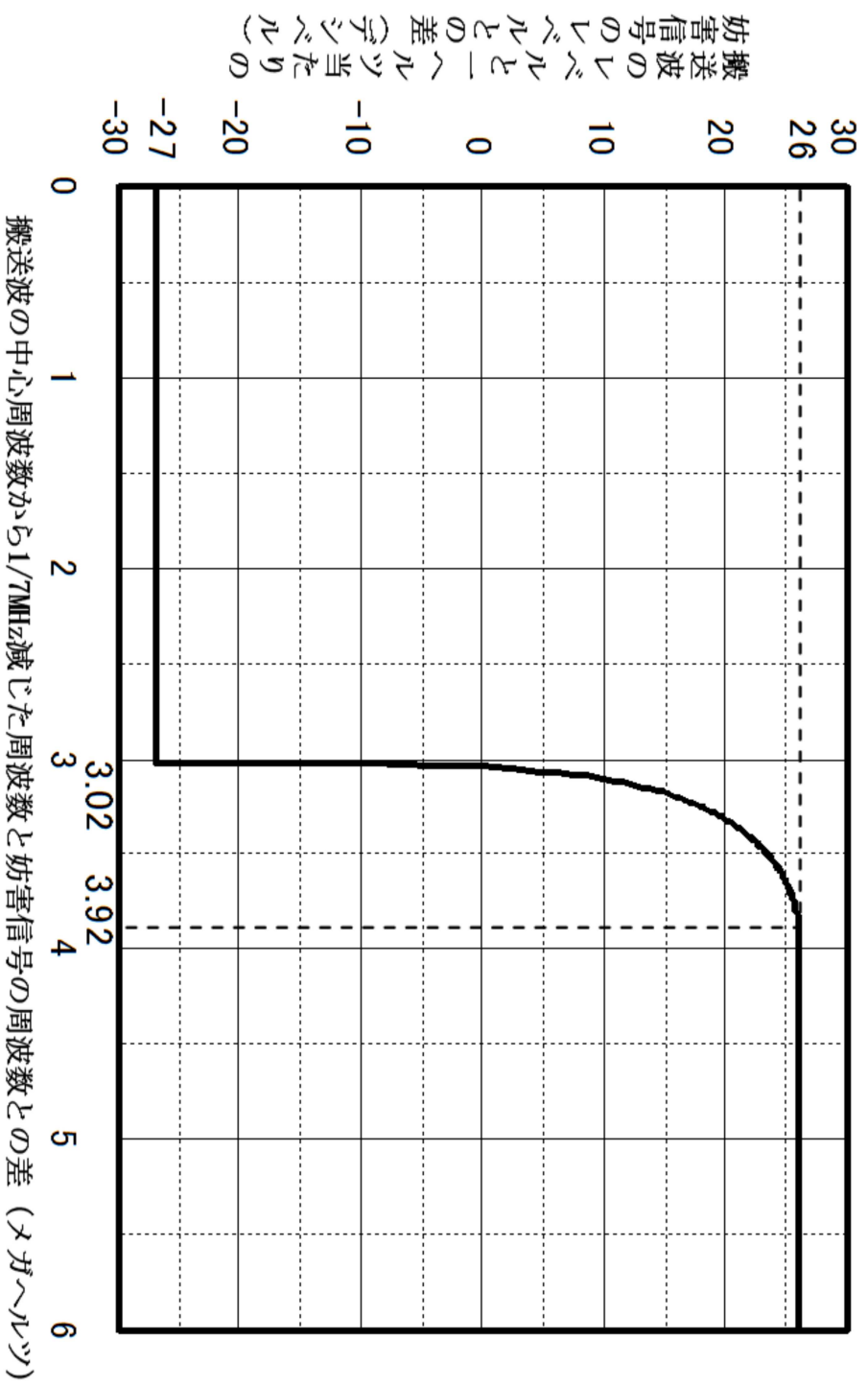
・ f が -3.92MHz を超え -3.02MHz 未満の場合 :

$$L = 26 + 20 \log_{10} \left\{ \sqrt{\frac{1}{2} \left(1 - \sin \left(\frac{\pi}{2} \times \frac{2(f+6) - f_0}{\alpha \cdot f_0} \right) \right)} \right\} \quad [\text{dB}]$$

なお、 $f_0 = 5.057$ [MHz]、 $\alpha = 0.18$ とする。

・ f が -3.02MHz 以上の場合 : $L = -27$ [dB]

別図第七号 標準デジタルテレビジョン放送方式の上側周波数のスペクトルマスク



注 1 一ヘルツ当たりの搬送波のレベルの平均値を基準値 (0 dB) とする。

注 2 スペクトルマスクの値は、次式のとおり。なお、搬送波の中心周波数から1/7MHz減じた周波数と妨害

信号の周波数との差 (MHz) を f 、搬送波のレベルとーヘルツ当たりの妨害信号のレベルとの差 (dB) を L とする。

・ f が 3.02MHz 以下の場合 : $L = -27$ [dB]

・ f が 3.02MHz を超え 3.92MHz 未満の場合 :

$$L = 26 + 20 \log_{10} \left\{ \sqrt{\frac{1}{2} \left(1 + \sin \left(\frac{\pi}{2} \times \frac{2(f-6) + f_0}{\alpha \cdot f_0} \right) \right)} \right\} \quad [\text{dB}]$$

なお、 $f_0 = 5.057$ [MHz]、 $\alpha = 0.18$ とする。

・ f が 3.92MHz 以上の場合 : $L = 26$ [dB]

別図第八号 標準デジタルテレビジョン放送方式のスペクトルマスク

